

東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (②セ02-14-4/5)

目 的

ASEAN 諸国を中心とする東南アジア及びその周辺地域は、多くの貴重な文化遺産を有し、我が国との文化的交流も緊密であるが、文化遺産保護体制や専門技術の水準において未だ課題を抱えている国が少なくない。このため、当該地域における保存修復事業への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて文化財の保存・修復に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成 果

1. カンボジア：(1)タネイ遺跡保存整備計画策定支援：2014（平成26）年5月18日から21日の間、アプサラ機構の担当部局とともに、タネイ遺跡の保存整備計画策定に向けて今後必要な調査項目・内容の検討を行った。その結果を受けて、7月20日から30日の間、前年度までの建築遺構実測研修の成果も活かしつつ、同遺跡現地で、デジタル写真画像から三次元モデルを作成するSfM（Structure from Motion）技術を試行し、現状立面図作成のための作業フローを確立するとともに、精度の検証等を行った。一連の作業はできるだけカンボジア人スタッフ主体で実施することで、技術移転に留意した。(2)ICC出席：2014（平成26）年6月4、5両日にシエムレアプで開催されたアンコール遺跡保存開発国際調整委員会（ICC）第23回技術会議に参加し、活動報告を行った。また、12月5日に開催された同第21回本会議、前日の4日に開催された第1回プレアヴィヒア遺跡国際調整委員会会議にも参加し、保存と国際協力の現状や課題に関する情報収集等を行った。
2. タイ：漆工芸品の保存に関する協力：前年度に引き続き、タイ文化省芸術局の要請にもとづく、バンコク市内ラチャプラディット寺院の扉に施された螺鈿装飾の保存に向けた協力を行った。2015（平成27）年1月13日から17日にかけて、同寺院にて、本堂扉の螺鈿装飾部位を対象に蛍光X線分析装置による測定を行い、螺鈿背面に使用されている金属箔片や顔料の同定などを行ったほか、タイ文化省芸術局関係者との研究打合せ等を行った。さらに、2月22日から28日にかけて、同寺院において高精細画像等の撮影を含む劣化状況の記録作業を行ったほか、同局関係者と修復方針等に関する研究会を行った。
3. ミャンマー：(1)伝統的漆工芸品の保存協力協定締結：ネピドーの協同組合省にて、U Mya Than 小規模産業局長代理ほか出席のもと、同局との協定書の署名式を行った。(2)伝統的木造建築に関する研究会開催：2015（平成27）年2月11日から18日にかけて、建築家のR. Myo Myint Sein氏及び技術大学マンダレー校のZar Chi Min 准教授を招聘し、13日には東京文化財研究所セミナー室にて研究会「ミャンマーの木造建築文化」を開催した。日本側研究者を含む発表とパネルディスカッションを行い、既往の研究成果を共有するとともに、今後の調査研究上の課題や歴史的建造物の適切な保護に向けた方向性などが議論された。また、招聘者とともに日本国内の文化財建造物やその修理現場等を見学しながら意見交換を行った。研究会には所内関係者も含めて計61名が参加した。さらに、4名の発表者による論考と研究会での討議内容を収録した報告書を刊行した。
4. その他：ブータンにおいて過去に日本人専門家が行った建造物調査のデータ類をデジタル化し、目録等の整理を行った。その後に改造されたり既に失われたりした建物に関する記録もあることから、貴重な資料として同国の文化遺産保護担当部局と共有し、今後の活用が期待されている。

以上の今年度活動内容を成果報告書にまとめて刊行したほか、別途ミャンマーの木造建築文化に関する研究会の報告書を刊行した。

②国際協力・交流等 Area11

刊行物

- ・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成26年度成果報告書』東京文化財研究所 15.3
- ・『ミャンマーの木造建築文化Traditional Wooden Buildings in Myanmar』（日本語、英語併記）東京文化財研究所 15.3

研究組織

- 友田正彦、川野邊渉、山下好彦、佐藤桂、山田大樹、増渕麻里耶、新免歳靖、北川瑞季（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）